

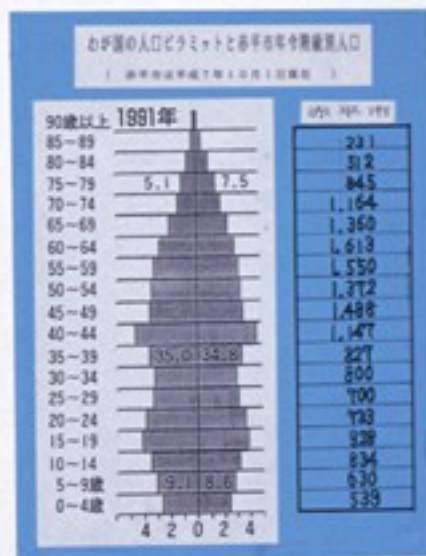
# 北海道の過疎地域における 開かれた高等学校

## デザインの主旨

21世紀を迎え、日本は高齢化社会になると言われています。また年々出生率が下がり、少子化時代の到来とも言われてきました。この現象は、北海道の過疎地域では、社会現象も相まって、いっそう著しくなっています。

一方、現代は核家族化が進み、世代間の交流が乏しく、年輩者は若者の文化を理解できず、若者は年輩者の長年の人生の知恵や経験を学び取ることが困難になっています。同じ年代以外の層とは、交流できない状況がジェネレーションギャップを生み、お互いの理解を阻んでいると言えます。

以上のような現実にあたって、北海道の過疎地域において、私たちは次のような「開かれた高等学校」を構想しました。



## 提 案

それは、世代の壁を越えてふれあう場であり、互いに学び合う場であり、また地域の文化・コミュニティセンターともなる「開かれた高等学校」のあり方です。今までも夜間や休日に学校を開放する試みはありました。が、それは単に施設のみ、或いはせいぜい講師の提供でした。

しかし、我々は高等学校のカリキュラム自体や課外活動の中で地域住民（高齢者）と高校生が共に活動し、学び合い、交流する場としての施設を作りたいと考えます。そこはまた、過疎地においては、都会の文化教室的な役割も果たし、地域住民の交流の場、地域文化の継承の場ともなり得ます。

若者は年輩者から知恵を学び、年輩者は若者から活力を得、相互理解が進む中で、地域も活性化するのはないでしょうか。

そういう場としての「開かれた高等学校」を提案します。



# 解決策

以上のような趣旨をふまえて、その意図するところを具現化する建物はどうかあるべきか。

それは、3つの側面を兼ね備えなければなりません。まず第1点は、従来の学校としての機能。次に高校生と地域住民（高齢者）のふれあいを深めたり、共同作業が出来る空間、最後に地域の文化センター的役割を果たせる施設。

そこで私たちは下のような円形建物を考えました。建物全体は十分な広さをとり、ゆったりとした感じになるようにしています。幸い北海道の道庁には、土地は余るほどありますから。

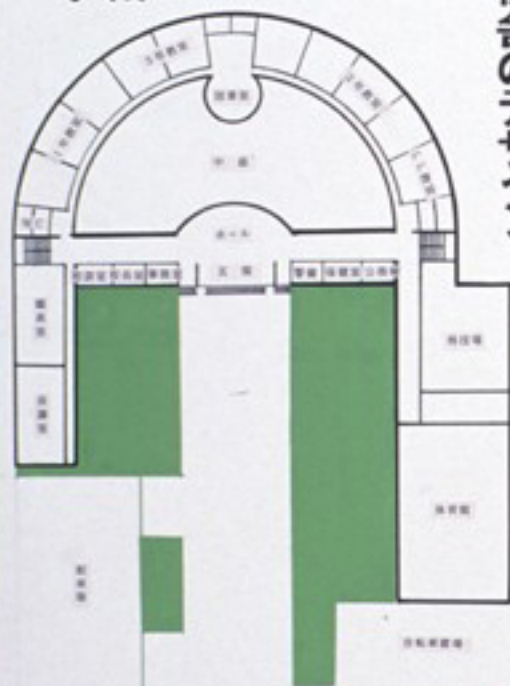
このような円形にすることで、そこに集う人々の気持ちも和み、開放的になり、他の人々との交歓がしやすいムードを醸し出せると思います。南に向けた円形窓からはどの部屋にも十分な採光が得られ、北風の強い冬も明るく過ごすことが出来ます。

具体的に内部を紹介しますと、1階は従来の学校的施設で、各教室が並びます。どの学年も同じ階にすることで学年を取り戻った気分が可能です。

2階部分がこの建物の目玉となります。学校の特別教室的な施設（音楽室、美術室一）も高校生だけでなく地域の住民も共同で使えるよう工夫されています。また、課外活動で郷土芸能を練習したり、高齢者と若者が定例を作ったりする広いスペースもあります。少ホールでは自演講義や自作の演劇を公演したりすることが出来ます。2階は、このように開かれた場なので、地域の住民がいつでも自由に入りに出来るよう玄関脇に専用の緩やかな階段を設置します。中庭は1階から外に出られ、2階の窓からは四季折々の草花を楽しむよう設計されています。もちろん庭造りは、高校生と地域住民の共同作業となります。中庭だけでなく、周辺の桜木等も共同作業で育てていきます。

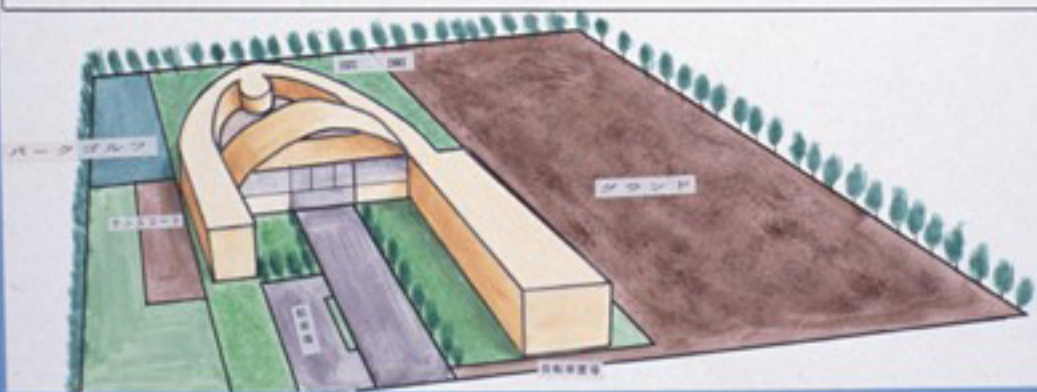
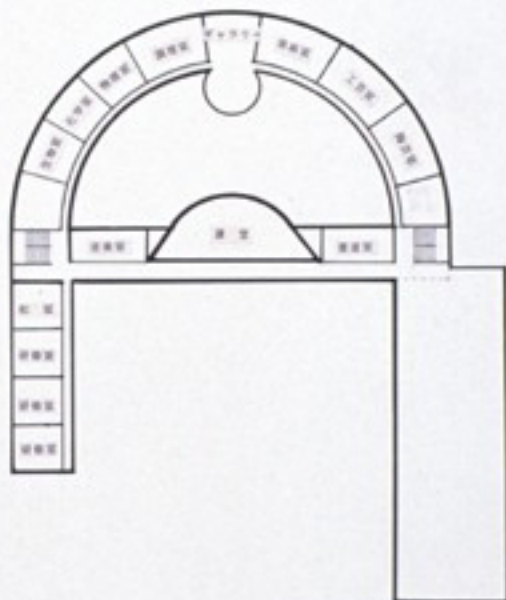
この建物は、若者だけでなく、地域住民、特に高齢者も使用するので手すりをつけたり、各種備品にも十分な配慮をします。

## 1階



## 校舎のデザイン

## 2階





# 教室のデザイン



奥に向いた円形窓からはどの部屋にも充分な採光が得られ、北面の高い窓も明るく通ずる。

## 机・椅子の改良

机の幅は、今よりも少し広  
めにして使いやすくします。



カバン掛け

授業のときは  
すべり止めをし  
ておきます。

取り出すことができます。  
引き出しに入りきれない物  
なども入れます。



机の引き出し部分には、教材が  
全部入らないので、左右につけは  
ずしが可能な工具箱を作ります。  
開ける方にカバンをかけます。  
大掃除などのときには、イスもか  
けることができます。

フターキーマットを敷くので  
滑れづらい。

ゆるめて調整



このキック  
で上下調整  
します。

前後に動く

キックで調整する。

ゆるめて調整



このイスは机のカバン掛け  
にかけたり、コンパクトにた  
たんで持ち運びができます。



## 図書館と中庭風景



## ギャラリーの風景



図書館は、校舎中央の円形建物で、1階からは生徒が、2階からは地域住民がいつでも自由に出入りする事が出来ます。内部はゆるやかな螺旋階段でつながり、あらゆる図書を開覧することが出来る様になっています。また、1階部分からは中庭にも出られ、戸外の木陰や新鮮な大気の中で、気持ちよく読書を楽しむことが出来ます。

2階の図書館前には、広い空間であり、そこは、生徒と地域の高齢者が、共同で作上げた作品や、個人の絵画・書道作品などが展示されています。

そこはまた、高校生と地域の高齢者が互いの作品を批評し合ったり、交流を深めるスペースともなります。ここではよそにはないゆったりした時間が流れます。

## 交流学习授業風景



2階の各部屋では、放課後の時間のみならず、授業時間にも高校生と地域の高齢者がともに学び合う光景が見られます。

調理の時間には、郷土の料理をお年寄りに教わったり、日本史などの講義を共に聴いたりします。

放課後の部活は、楽器を一緒に演奏したり、ときには、郷土の伝統芸能を伝承する場になります。